

幸田弘子の会

舞台朗読30周年記念公演

一葉による一葉

一葉の言葉でたどる一葉の生涯

24年という短い生涯に、今も読み継がれる名作を残して逝った樋口一葉は、22歳、明治27(1894)年の暮れからの「奇跡の14カ月」と言われる時期に、『たけくらべ』『にこりえ』『十三夜』などの名作を次々と発表しました。父親が残した負債を抱えて、生涯独身で、樋口家の戸主として母と妹を養い、貧しい暮らしから抜け出せないまま、

明治29(1896)年11月23日、24歳の若さで亡くなりました。小説を書き始めたのも、生活を支えていく収入を得るための手段でした。

そんな一葉さんの作品に惹かれて、上野の本牧亭で「二葉のゆうべ」を開いてから、ちょうど30年。『たけくらべ』の美登利、『にこりえ』のお力、『十三夜』のお閑、『わかれみち』のお京はじめ一葉の分身ともいえる魅力的な女主人公たちは、どのように生み出されたのか――。その秘密を、一葉の残した日記と小説、随想、メモなどからたどっていきます。

『二葉による一葉』は、一葉自身の筆による自画像です。舞台朗読30年目を迎えた今年、新たな構成でお送りする『二葉による一葉』の決定版をお聞きいただけたいと思います。

幸田弘子プロフィール

東京生れ。NHK東京放送劇団に入り、放送・舞台で活躍。主演した三善晃作曲、音楽詩劇「オンディーヌ」は文部大臣賞、イタリア賞大賞を受賞。舞台上で古典から現代文学作品までの朗読を続け、1977年から毎年「幸田弘子の会」を開催、樋口一葉を中心に、『源氏物語』や泉鏡花・森鷗外・夏目漱石・瀬戸内寂聴の作品など、古典から現代まで舞台上で朗読。舞台朗読という新しい分野を確立した功績に対し、81・82・84年と続けて芸術祭優秀賞受賞。さらに84年度芸術選奨文部大臣賞、95年毎日芸術賞、96年紫綬褒章、02年藤村記念歴程賞受賞。99年より『源氏物語』、『おくのほそ道』などによる「古典を読む」会の連続公演も開始している。01年から「源氏語り五十四帖」と題して『源氏物語』の原文を、彩の国さいたま芸術劇場(年6回・9年間)で読み始めている。03年秋の叙勲において旭日小綬章を受章。



樋口一葉



幸田弘子

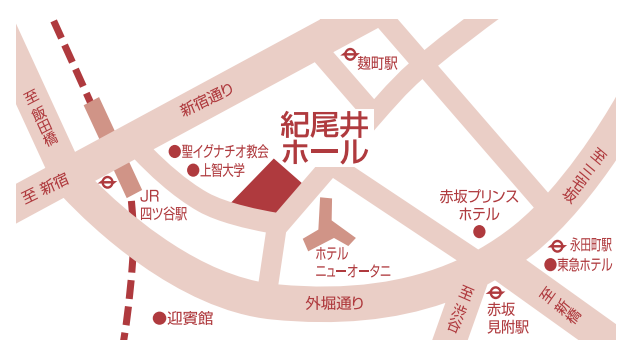
日時：平成18年11月1日(水)～3日(金・祝) 会場：紀尾井小ホール

●開演時間 *公演日により、開演時間が異なります。十分ご注意ください。

11/1(水)	11/2(木)	11/3(金・祝)
午後3時	午後2時	午後2時
午後7時	午後7時	

- 入場料 一般4,500円 学生3,000円(全席指定)
- 予約・お問い合わせ 幸田弘子の会 ☎(03)3655-2705 (10時～6時、土・日・祝休) E-mail : kodahirokonokai@m6.gyao.ne.jp

●前売券取扱 紀尾井ホール・チケットセンター ☎(03)3237-0061 (10時～7時、日・祝休)



- 最寄駅
- ・四ツ谷駅(JR線・丸ノ内線・南北線) 徒歩6分
 - ・麹町駅(有楽町線) 徒歩8分
 - ・赤坂見附駅(銀座線・丸ノ内線) 徒歩8分
 - ・永田町駅(半蔵門線・有楽町線) 徒歩8分